

新潟大学佐渡自然共生科学センター

2023（令和5）年度年次報告書

## 目次

<b>1</b>	<b>佐渡自然共生科学センターについて</b> .....	<b>1</b>
<b>2</b>	<b>活動概要</b> .....	<b>1</b>
2-1	各領域の活動概要.....	2
2-2	領域が連携して取り組む活動のハイライト.....	5
<b>3</b>	<b>研究業績</b> .....	<b>7</b>
3-1	研究論文・著書等.....	7
3-2	研究費.....	17
<b>4</b>	<b>教育活動</b> .....	<b>19</b>
4-1	学内の教育.....	19
4-2	佐渡3施設で実施した他大学等の教育.....	20
4-3	3施設で実施したその他の教育.....	21
4-4	施設利用状況.....	21
<b>5</b>	<b>地域連携と社会活動</b> .....	<b>21</b>
5-1	佐渡市との連携による事業.....	21
5-2	その他の地域連携・社会活動.....	21
5-3	シンポジウム・セミナー等の開催.....	24
<b>6</b>	<b>資料</b> .....	<b>24</b>
6-1	報道関係.....	24
6-2	構成員.....	25

## 1 佐渡自然共生科学センターについて

新潟大学佐渡自然共生科学センターは、佐渡島にあった農学部附属フィールド科学教育研究センター佐渡ステーション（演習林）、朱鷺・自然再生学研究センター、理学部附属臨海実験所の3施設が2019年4月に統合して、佐渡島の森里海の自然共生科学を展開する総合的な教育・研究センターとして発足した。本センターは森林・里山・海洋の各領域とコミュニティデザイン室（以下、CD室と略す）からなり、佐渡島の森里海の生物多様性・生態系の仕組みを解明すると同時に、社会・歴史などとの複合領域の自然共生科学を追求し、佐渡島の豊かな自然環境を活かした持続可能な自然共生社会を提案し、教育・研究・地域連携・国際交流を推進するとともに、地域と創り上げるシチズン・サイエンスの実現を目指している。

## 2 活動概要

2023年度は、佐渡自然共生科学センターに新たに准教授2名と特任教員2名が着任した。森・里・海の共同研究を展開するために、センターセミナーにおいて専任・特任教員の研究内容を紹介し、研究シードを共有した。2023年10月には、東京オリンピックの金メダリストを招いてセンター公開シンポジウム「佐渡島でカエルへの愛を叫ぶ：カエルの魅力を言いたくて仕方ない私たち～佐渡島のカエル研究のあれこれ～」を開催し、一般市民と研究者を対象とした対面・オンラインのハイブリッド型シンポジウムを佐渡市あいぼーとで開催し、232名の方に参加いただいた（含オンライン参加144名）。参加者の議論の中で、カエルを材料としたシチズン・サイエンス展開の可能性についても検討できた。また、佐渡市民を対象とした講座、ワークショップ等を多数開催した。

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が2類から5類へ格下げになったことにより、各領域の教育・研究活動における制限が緩和された。文科省の教育関係共同利用拠点事業は、演習林は2022年度から、臨海実験所も2023年度から、第Ⅲ期事業に更新された。森林領域、海洋領域では、COVID-19以前と同じく対面による学生実習による教育活動に加えて、パンデミック期間中に作成したオンライン・コンテンツを利用したリアルタイムおよびオンデマンド型のハイブリッド形式の教育活動も展開した。また、里山領域を含めた3領域が協力した、学内・学外対象の森里海実習も実施した。パンデミック期間中、オンラインでしか実施できなかった佐渡自然共生科学センターに所属する学生の研究発表会を4年ぶりに対面で実施できた。さらに、CD室が佐渡市・㈱NTTデータと共に企画・運営している「佐渡島自然共生ラボ」では、新たな自然資源の活用方法の探索、エシカル生産・消費の拡大、佐渡の地域資源の可視化など、自然共生社会の実現に向けた具体的な取り組みを推進した。

## 2-1 各領域の活動概要

### 森林領域／演習林

森林領域は、大佐渡北部稜線上に大学が所有する約 500ha の天然林・人工林を中心として、島内・島外の森林において植生学・森林生態学・種生態学・動植物相互作用学などの研究を展開すると共に、農学部・理学部の実習を担当し、教育関係共同利用拠点として他大学の実習も多数実施している。

4 月には本学に所属する内部委員及び外部有識者で構成される共同利用運営委員会の会議をオンラインで実施した。

5 月～10 月（無雪期間）に、公募型・受託型・フィールド利用型を主とした他大学共同利用実習、農学部及び自然科学研究科の学内実習、他学部による学内共同利用実習を行った。他大学共同利用実習 12 件、学内実習 6 件、学内共同利用実習 2 件が実施され、延べ利用者数は 1192 名であった。新潟大の農学部・理学部を除く利用機関数は 22 であった。また、一般向け公開実習およびセミナーが 3 件実施され、延べ利用者数は 63 名であった。学内外の一般利用（調査研究等での利用）の延べ利用者数は 1329 名であった。

新型コロナウイルス感染症の第 5 類への移行を受け、実習参加人数を定員 27 名として実習の運営を行った。また、これを受け With コロナ時代の共同利用実習実施に向けたガイドラインの更新を行った。具体的な内容として、実習中の食事を弁当に切り替える、実習中における手洗いうがいの徹底をお願いするなどの措置は引き続き継続された一方、実習前の行動自粛や宿泊室の利用定員の制限などの措置は撤廃された。

実習の公募や活動報告を行うために、ホームページ、ブログ、Facebook を随時更新して情報を発信した。令和 5 年度は演習林のホームページをリニューアルし、動画コンテンツや演習林で保管されている植物標本の情報を集約することで、これらのコンテンツをより多くの人々が利用できるよう努めた。また、演習林や佐渡島内の自然に関する情報を発信するため、ブログ記事を頻繁に更新するように努めた（2023 年 4 月～2024 年 4 月に計 63 回）。

### 里山領域／朱鷺・自然再生学研究施設

里山領域では、新穂潟上にある朱鷺・自然再生学研究施設を拠点として、佐渡のシンボルであるトキの再導入生物学の確立や地域の生物多様性の実態の解明、生態系の復元手法の開発、自然共生に向けた社会システムの構築などにかかわる研究を進めている。自然科学と人文・社会科学の融合を図り、学際的環境科学を推進するとともに、地域住民や行政機関との連携による調査や教育活動にも取り組んでいる。

佐渡の里山の象徴であるトキをシンボルとした自然再生に関する座学に加えて「朱鷺・自然再生フィールドワーク」実習を実施し、専門科目として理・農学部学生を対象とした「自然再生学実習」を実施した。次に、地域や行政機関との連携を図りながら実施している文理融合の自然共生プロジェクトとして、大規模ほ場整備が予定されている金井地区において、サドガエ

ルの生態や生息環境を明らかにするとともに、次世代も参加したサドガエルの保全に関する取り組みを展開している。また、クロサンショウウオとヤマアカガエル幼生の相互作用に関する研究の予備的な飼育実験を開始した。放棄棚田を自然再生した実験ほ場であるキセン城ビオトープにおいて、アメリカザリガニの除去実験により、ザリガニの密度低減区で水生昆虫群集の生物多様性が向上することが明らかになった。同時に複数の除去法を併用することで、個体群密度を効果的に低下させることが可能となったが、完全に除去することはできなかった。再導入トキ個体群はコロニー繁殖参加個体の増加による繁殖成績の低下で個体群成長が鈍化し、2012年に野生下繁殖が確認されて以降、最低となった。トキの営巣適地マップを作成するために、トキの営巣木、および、営巣林選択に関する研究に着手した。

### 海洋領域／臨海実験所

臨海実験所は、フィールドワークを通して海洋生物の多様性とその成り立ちについての実践的高等教育を行うというミッションを基に、佐渡島に残されている豊かな自然環境と生物相を利用して、海洋生物の多様性と生理学・生態学・発生学に関する高度な教育・研究を行っている。生物の多様性と普遍性の理解は、生物学の教育・研究の基礎となるものであり、2023（令和5）年度は、新潟大学の理学部理学科（2年生）、同生物学・地質科学・自然環境科学の各プログラム（2,3年生）、理学部・農学部のフィールド科学人材育成プログラム（2,3年生）の学生、全学部の学生を対象にした臨海実習や講義を通して、基礎生物学およびフィールド科学の教育・研究に貢献した。

また、佐渡自然共生科学センターの他の領域/施設（森林領域/演習林、里山領域/朱鷺・自然再生学研究施設）と協同して、森・里・海をつなぐ生態系についての高度な知識と見識を持つ人材の育成を行った。当実験所は、2017（平成30）年度から2022（令和4）年度まで、文部科学省の教育関係共同利用拠点「佐渡島生態系における海洋生物多様性・適応生理生態学教育共同利用拠点」として活動してきたが、2023年度からは、新たに「佐渡島の森里海生態系における多様な生物相を活用した国際海洋生物学教育共同利用拠点」として認定され（認定期間：2023（令和5）年4月1日～2028（令和10）年3月31日）、国際実習やオンライン実習を交えた多様な教育活動を行っている。新型コロナウイルス感染症が2023年5月に5類感染症へと移行したことにより、2023年度は2022年度までと比較して多数の実習・研修等を行った。教育共同利用として、2023年度には、学内外の実習25件を含め、延べ1,300名以上が本実験所を利用した。なかでも、2022度にはオンラインのみで実施した国際臨海実習を、2019年度以来4年ぶりに“International Marine Biology Course 2023”として対面で実施することができた。本実習は、JST さくらサイエンスプログラムの支援を受けて、バングラデシュ農業大学（バングラデシュ）、チャットグラム獣医動物科学大学（バングラデシュ）、ハノイ国立教育大学（ベトナム）、コーチン科学技術大学（インド）、香港大学（中国）の5つの海外研究教育機関、国内2大学からの参加者の計26名を招聘し、加えて、リアルタイムおよびオンデマンド型のハイブリッド形式で実施することにより、オンラインでも27名が参加した。

昨年度までに引き続きオンデマンド実習教材の充実をはかった。国際実習の教育効果や海外からの利用者の利便性をあげる取り組みとして、日本語に加えて英語による動画も作成し、日英併せて実習内容の紹介 17 編と海洋生物の紹介 53 編，施設紹介 2 編の動画教材を公開した。また，臨海実験所ホームページにて公開中の佐渡の海洋生物図鑑には，動画の再生回数が 1000 回以上となるものもあり，有効に利用されている。

地域・社会連携については，高校生を対象とした臨海実習を 2019 年度以来 4 年ぶりに対面で実施した。また，小中学生や一般の佐渡市民向けの実習の実施，講演会やイベントへの参加を行った。また，海洋教育に関する社会啓発活動として，佐渡市と連携し，佐渡島海岸のビーチクリーニングと海洋マイクロプラスチックの採集体験を実施した。

施設・設備については，2022 年 10 月に進水した実習調査船「アイビス II」での研究・教育活動を充実させるため，新たに採泥器と生物ドレッジを導入した。顕微鏡カメラシステムや実習室の椅子の更新を行って，研究・教育環境の向上を図った。また，災害等の緊急時に備え，避難用品を充実させた。

## コミュニティデザイン室

佐渡島を舞台に，新潟大学ならびに外部の研究者や企業との連携を図りながら，自然共生という価値の追求と持続可能な地域の発展につながる実装型プロジェクトを推進するため，2020 年 1 月に開設された。

2023 年度は，佐渡市・株式会社 NTT データとの共同研究として，「佐渡島自然共生ラボ」という自然共生をテーマとするリビングラボの企画・運営を進めた。ラボでは，海藻資源や竹資源の新たな活用方法の探索，エシカル生産・消費の拡大，佐渡の地域資源の可視化などのプロジェクトを地域ステークホルダーとの協働で展開し，自然共生社会の実現に向けた具体的な取り組みを推進した。

文理融合の自然共生プロジェクトとして，ほ場整備におけるサドガエル保全を目指した取組を，行政機関・地域との連携のもと進めた。具体的には，域学連携のもとサドガエルの移殖を実施し，その後のモニタリングを行ってきた。モニタリング調査では 3 つの手法を比較することで，整備後を見据えた最適なモニタリング方法の基礎的検討を行い，関係機関との情報共有を図った。そして，ここで得たデータを用いて整備エリアにおけるサドガエルの生息環境に関する研究を進めた。整備過程で偶発的に発生した環境（切土区間に発生した水場）が一大繁殖地となっていたことや，ミティゲーションの放逐先エリアではサドガエルが居着いていないことなど，今後の整備のなかで配慮すべき事象を明らかにし，行政と連携して今後の市民参加型ミティゲーションの具体的な展開を協議した。

朱鷺の島地域再生人材創出事業では，佐渡市との連携講座である「ジオパーク市民講座」を 1 回（参加者延べ 11 名），佐渡市理科教育センターとの連携講座である「学校教職員対象研修」を 3 回（参加者延べ 23 名），市民との共同企画による「里山体験ガイドフォローアップ研修」を 3 回（参加者延べ 28 名）実施した。

## 2-2 領域が連携して取り組む活動のハイライト

### 森里海の研究

#### 1) 里と河川をつなぐ動物の生態研究

佐渡自然共生科学センターで連携して実施してきた佐渡島の河川を中心とした生態系間の相互作用に関する共同研究を発展させて、陸域と水域をつなぐ動物を対象とした研究を継続して行っている。水生昆虫は河川生態系の食物連鎖における主要な役割を担っているため、大倉川の過去5年間のデータや2022年度からの調査を通じて、水生昆虫相の季節変動や年次変動を調べてきた。その結果、中流域と下流域でヤマトビケラとシマトビケラが優占し、年次変動ではヤマトビケラの個体数変動が大きいこと、上流域ではコカゲロウが優占し、昆虫相の年次変動は小さいことが明らかになった。また、上流域よりも下流域における水生昆虫相の変動が大きかった。(阿部晴恵, 飯田碧)

#### 2) 国府川を中心とした河川と地域史の研究

佐渡島の平野部を流れる国府川は、人々に生活に関わる水資源を提供し、なりわいや生き物とふれあう場として地域の住民に利用されてきた。一方、現在では河川の利用が減少しており、環境も変わってきている。このため、河川がかつてどのような場だったのかという地域の歴史が失われつつある。そこで、河川を利用してきた地域住民や郷土史に詳しい方への聞き取りや地名の調査、河川の生態調査を通して、河川の環境や地域の人々と河川との関わりの変遷を明らかにする研究に取り組んでいる。(豊田光世, 飯田碧)

### 森里海の教育と情報発信

#### 1) 森里海の野外生態実習

佐渡島は、森、里地、川、海が近い距離に存在し、それらの生物多様性やつながりを学ぶ絶好のフィールドである。この環境を活かして、森里海の3領域が協働して、新潟大学の全学部生および公開臨海実習として全国の大学生を対象とした「森・里・海フィールド実習」を毎年夏に行っている。約一週間の行程で、トキの野生復帰の現場や里山の環境、河川や海の生物の観察、島ならではの森や植生の観察や、人と自然との関わりに関する学習から、生物多様性やそれらのつながりを理解することを目的としている。

#### 2) 佐渡自然共生科学センターシンポジウム2023の開催

2023年10月に「新潟大学佐渡自然共生科学センターシンポジウム2023 佐渡島でカエルへの愛を叫ぶ」を開催した。カエルはわたしたちにとって最も身近な野生動物のひとつだろう。春からカエルの合唱を聞かされるここ佐渡では多くの人が同意してくれるはずだ。そんな”自然界の隣人”ともいえるカエルであるが、わたしたちは彼らをどの程度気にかけて生活している

だろうか？世界的にカエルなど両生類が減少している今、その保全に向けて、まずは隣人であるカエルに関心を持つことが大事に思える。そこで、本シンポジウムでは、カエルの魅力や不思議を市民と共有すべく、カエルを対象に研究をしている研究者とその卵たちに自身が行ってきたことやカエルへの思いを語ってもらった。対面とオンラインを併用し、200名以上の参加者があった。カエルの減少はここ佐渡も例外ではない。例えば、数少ない佐渡固有の脊椎動物、サドガエルは2017年から環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類、そして、2018年からはより絶滅リスクの高い絶滅危惧ⅠB類に選定されている。本シンポジウムが佐渡島民のカエルへの関心を高め、サドガエルを含む両生類の保全について考えるきっかけとなったら幸いである。

### 3 研究業績

#### 3-1 研究論文・著書等

論文（英文・和文の順, 筆頭著者アルファベット順）

	著者名	タイトル	雑誌名・巻(号)	ページ	年
1	H. Abe, H. Miura, R. Katayama	A comprehensive comparison of flower morphology in the genus <i>Camellia</i> , with a focus on the section <i>Camellia</i>	Journal of Integrated Field Science (JIFS) 20	2–9	2023
2	T. Aihara, K. Araki, Y. Onuma, Y. Cai, A. M. M. Paing, S. Goto, Y. Hisamoto, N. Tomaru, <u>K. Homma</u> , M. Takagi, T. Yoshida, A. Iio, D. Nagamatsu, H. Kobayashi, M. Hirota, K. Uchiyama, Y. Tsumura	Divergent mechanisms of reduced growth performance in <i>Betula ermanii</i> saplings from high-altitude and low-latitude range edges	Heredity 131	387–397	2023
3	T. Aihara, K. Araki, R. Sarmah, Y. Cai, A. M. M. Paing, S. Goto, Y. Hisamoto, H. Taneda, N. Tomaru, <u>K. Homma</u> , M. Takagi, T. Yoshida, A. Iio, D. Nagamatsu, H. Kobayashi, M. Hirota, Y. Tsumura	Climate-related variation in leaf size and phenology of <i>Betula ermanii</i> in multiple common gardens	Journal of Forest Research 29 (1)	62–71	2024
4	J. C. Donaldson, K. Maeda, <u>M. Iida</u> , H. Kobayashi, B. C. Ebner, H. D. Tran	New distributional records of four amphidromous gobies (Gobioidei: Sicydiinae) in continental Vietnam	Cybium 47	467–472	2023
5	Y. Kogure, <u>A. Omori</u> , Y. Fujita	Taxonomic status of the oreasterid sea star <i>Bothriaster primigenius</i> Döderlein, 1916 (Echinodermata, Asteroidea)	Biogeography 25	13–18	2023

	著者名	タイトル	雑誌名・巻(号)	ページ	年
6	K. Masuda, H. Setoguchi, K. Nagasawa, S. K. Hirota, Y. Suyama, K. Sawa, S. Fukumoto, M. I. Ishihara, <u>H. Abe</u> , H. Tsuboi, T. Tango, S. Mori, S. Sakaguchi	Genetic consequences of Last Glacial–Holocene changes in snowfall regime in <i>Arnica mallotopus</i> populations: A plant confined to heavy-snow areas of Japan	American Journal of Botany. doi.org/10.1002/ajb2.16275	Online	2024
7	R. Masuko, T. Yamada, S. Sukegawa, T. Ohta, N. Minato, M. Yamazaki, H. Inoue, T. Fujii, <u>H. Iwaisaki</u>	Identification of TGFβ signaling pathway showing heat stress-responsive activation associated with heat tolerance for growth rate in small intestine of finishing pig	The Journal of Animal Genetics 51(2)	49–55	2023
8	<u>M. Nitta</u> , M. Ohira, M. Aoki, M. Nakajima	Habitat evaluation of agricultural waterways where environmental improvement was practiced for recreation	International Journal of Environmental and Rural Development 14(1)	153–162	2023
9	A. Ohwaki, T. Ishikawa, S. Morita, Y. Okatsu, Y. Nakano, <u>H. Sakio</u>	The effects of heterogeneity created by treefall, landslide, and stream on ground beetle assemblages in a primary beech forest	Forest Ecology and Management 547	1–10	2023
10	Y. Oto, M. Kuroki, <u>M. Iida</u> , R. Ito, S. Nomura, K. Watanabe	A key evolutionary step determining osmoregulatory ability for freshwater colonisation in early life stages of fish	Journal of Experimental Biology 226. doi:10.1242/jeb246110		2023
11	S. Satoh, T. Takahashi, S. Okuno, <u>K. Kawasaka</u> , M. Lwabanya	Ghost fishing threatens biodiversity in an African great lake	Fisheries. doi:10.1002/fsh.11061		2024
12	M. Shahjahan, M. L. Rahman, Y. Ohno, Md. Zahangir, <u>H. Ando</u>	Lunar age-dependent oscillations in expression of the genes for Kisspeptin, GnIH, and their receptors in the grass puffer during the spawning season	Zoological Science 41	97–104	2023
13	S. Sogawa, R. Fukushima, W. Sowersby, S. Awata, <u>K. Kawasaka</u> , M. Kohda	Male guppies recognize familiar conspecific males by their face	Zoological Science 40	168–174	2023

	著者名	タイトル	雑誌名・巻(号)	ページ	年
14	A. Sumida, Y. Inagaki, <u>T.</u> <u>Kajimoto</u> , M. Katsuno-Miyaura, A. Komiyama, N. Kurachi, T. Miyaura, S. Hasegawa, T. Hara, K. Ono, M. Yamada	Allometry of the quasi-pipe (qPipe) model for estimating tree leaf area and tree leaf mass applied to plant functional types	Scientific Report 13	9954	2023
15	W. Yoichi, I. Tamaki, SH. Oh, AJ. Nagano, K. Uehara, N. Tomaru, <u>H. Abe</u>	The evolutionary history of rice azaleas ( <i>Rhododendron tschonoskii</i> alliance) involved niche evolution to a montane environment	American Journal of Botany 110(4)	e16166	2023
16	A. Zoda, S. Ogawa, H. Matsuda, Y. Taniguchi, T. Watanabe, Y. Sugimoto, <u>H. Iwaisaki</u>	Homozygosity region analysis using commercial single nucleotide polymorphism markers in Japanese Black cattle population	The Journal of Animal Genetics 51(1)	3–10	2023
17	松倉君子, 堀田 崇仁, <u>阿部晴恵</u>	ツバキ菌核病菌ツバキキンカクチャワシタケのツバキ属樹種自生地における生息密度と宿主選好性	樹木医学研究 27(4)	187–193	2023
18	<u>新田将之</u> , 中島 正裕	世代継承に向けた住民主導型地域づくりの長期展開プロセスにみる試論の検証：地域づくりの仕組みの構成要素の導出を足掛かりとして	農村計画学会論文集 14(1)	34–46	2024
19	<u>崎尾 均</u> , 増澤 武弘	富士山森林限界一過去・現在・未来一	富士学研究 18	89–99	2023
20	<u>崎尾 均</u> , 上村 こころ, 中野陽 介	伊南川におけるハリエンジュとヤナギ類の実生の耐水性と細枝による栄養繁殖能力	保全生態学研究 28	347–357	2023
21	澤田聖人, <u>阿部 晴恵</u>	佐渡島南西部においてジムグリの胃内容物から発見されたサドトガリネズミ <i>Sorex shinto sadonis</i> の初記録	哺乳類科学 63(2)	215–218	2023
22	<u>豊田光世</u>	自然共生を追求する共創のしくみづくりの挑戦	森林環境	67–74	2024
23	<u>豊田光世</u>	地域文化資源を活かした安全安心まちづくり：佐渡福浦かっぱ村での市民普請の試み	日本安全学教育研究会誌 (15)	39–42	2023

書籍 (英文・和文の順, 筆頭著者アルファベット順)

	著者名	タイトル	書籍名 (編者)	ページ	出版社	年
1	B. Johnson, B. Lukey, <u>M. Toyoda</u> , R. Tsuji	Communities of Philosophical Inquiry for the Empowerment of Ecological Agency	Field Environmental Philosophy: Education for Biocultural Conservation, (eds. R. Rozzi, A. Tauro, N. Avriel-Avni, T. Wright, R.H. May Jr.)	359-378	Springer	2023
2	<u>A. Omori</u> , N. Irie	Hox Genes in Echinoderms	Hox Modules in Evolution and Development, (ed. D. E. Ferrier)		CRC Press	2023
3	<u>本間航介</u>	トキと共生する佐渡の里山	日本の土壌事典 (波多野隆介・真常仁志・高田裕介 編, 日本土壌肥料学会・日本ペドロロジー学会監修)	245-247	朝倉書店	2023
4	<u>永田尚志</u> , <u>岡久雄二</u>	大型鳥類の野生復帰	野生動物の保全と管理の事典 (「野生生物と社会」学会編集)	印刷中	朝倉書店	2024
5	<u>新田将之</u>	中小河川における子どもの親水利用とコミュニティ形成	シリーズ<水辺に暮らす SDGs> 1 水辺を知る一湿地と地球・地域, 日本湿地学会 (監修) / 高田雅之・朝岡幸彦 (編集代表) / 新井雄喜・石山雄貴・佐々木美貴・鈴木詩衣菜・田開寛太郎 (編)	88-91	朝倉書店	2023
6	<u>岡久雄二</u> , <u>永田尚志</u>	トキ	野生動物の保全と管理の事典 (「野生生物と社会」学会編集)	印刷中	朝倉書店	2024
7	<u>崎尾 均</u>	森林限界は上昇する	愛しの生態系 (植生学会編)	38-43	文一総合出版	2023
8	<u>崎尾 均</u>	風雪が作り出した芸術作品-異形の天然スギ	愛しの生態系 (植生学会編)	62-67	文一総合出版	2023
9	<u>豊田光世</u>	子どもの哲学と「包括的展開」-民主的な社会の実現のために	対話的教育論の探究: 子どもの哲学が描く民主的な社会 (編集: 田中伸・ <u>豊田光世</u> )	33-51, 243-253	東京大学出版会	2023

## 報告書等

	著者名	タイトル	報告書名	ページ	年
1	A. M. M. Paing, S. Chen, K. Arwki, T. Aihara, R. Sarmah, M. Hirota, Y. Tsumura, N. Tomaru, <u>K. Homma</u> , M. Kadomatsu, T. Yoshida, H. Kobayashi, A. Iio, K. Osumi, D. Nagamatsu, M. Takagi, H. Taneda, N. Kimura, S. Fukuda, Y. Hisamoto, S. Goto	Site characteristics of <i>Betula ermanii</i> range-wide provenance trials	Miscellaneous Information of The University of Tokyo Forests 63	11–22	2023
2	<u>飯田 碧</u>	ボウズハゼは海を渡る？ ～ボウズハゼ類の生態と生活史の特性～	アクアライフ 2023年6月号	64–65	2023
3	<u>梶本卓也</u>	人工林施業の現状と課題について	令和5年度森林整備保全事業推進調査報告書（林野庁）	62–72	2024
4	許明琪, 岡本和姫, <u>梶本卓也</u> , <u>古郡憲洋</u> , 村上拓彦, 本橋尚樹	「森林計画学会 夏期セミナー2022」実施報告	森林計画学会誌 57巻1号	23–25	2023

## 国際学会・会議での発表（発表年月順）

	発表者名	タイトル	学会名	会場	年月
1	<u>M. Iida</u> , K. Shimada, S. Nakajima, K. Toyota, R. Asada	Habit utilisation of small migratory gobioid fish in relation to microhabitat use and benthic communities in small streams on Sado Island, northern Japan	Freshwater Sciences 2023	Brisbane, Australia	2023/06
2	<u>M. Toyoda</u>	A challenge of designing a living lab for advancing ecological sustainability in Sado, Japan	The 7 <sup>th</sup> Conference of East Asia Research Association for Agricultural Heritage Systems (ERAHS)	Lishui, China	2023/06

	発表者名	タイトル	学会名	会場	年月
3	<u>H. Abe</u> , S. Ueno, A. Matsuo, S. Hirota, H. Miura, M. Su, Y. Shen, Y. Suyama, Z. Wang	Evolutionary history of <i>Camellia</i> section in Japan	Island Biology 2023	Italy	2023/07
4	<u>M. Nitta</u> , M. Aoki, M Ohira	Assessing river environments for aquatic habitats and recreational use	the 40th IAHR World Congress	Vienna, Austria	2023/08
5	<u>M. Iida</u> , K. Shirai, K. Natsukawa	Life history traits of the migratory river sculpin in small streams on Sado Island, northern Japan	11 <sup>th</sup> Indo-Pacific Fish Conference and the Australian Society for Fish Biology 2023	Auckland, New Zealand	2023/11
6	H. Kobayashi, K. Maeda, M. Sato, H. H. Tan, K. Shirai, <u>M. Iida</u> , K. Yamahira	Cavefishes across the ocean: evidence for amphidromy in a cavernicolous goby on tropical islands	11 <sup>th</sup> Indo-Pacific Fish Conference and the Australian Society for Fish Biology 2023	Auckland, New Zealand	2023/11
7	K. Maeda, <u>M. Iida</u> , H. Kobayashi, K. Shirai, H. P. Palla, H. D. Tran	Migration and distribution patterns of freshwater gobies of the genus <i>Rhinogobius</i> in continental rivers and tropical island's streams	11 <sup>th</sup> Indo-Pacific Fish Conference and the Australian Society for Fish Biology 2023	Auckland, New Zealand	2023/11
8	Y. Watanabe, I. Tamaki, S.-H. Oh, A. J. Nagano, T. Yukawa, T. Minamitani, K. Uehara, N. Tomaru, <u>H. Abe</u>	The evolutionary history of rice azaleas ( <i>Rhododendron tschonoskii</i> alliance) involved niche evolution to a montane environment	East Asian Plant Diversity and Conservation Symposium	Osaka, Japan	2023/11
9	<u>P. Chowdhury</u> , <u>M. Iida</u>	Pelagic community structure and seasonal changes of zooplankton at Sado Island, Sea of Japan: Comparison of the open sea and coastline	ICES-PICES 7 <sup>th</sup> International Zooplankton Production Symposium	Hobart, Tasmania, Australia	2024/03

#### 国内学会・会議等での発表（発表年月順）

	発表者名	タイトル	学会名	会場	年月
1	<u>豊田光世</u>	佐渡島で展開する多世代共創のまちづくり	第5回日本在宅医療 連合学会大会	新潟	2023/06
2	<u>崎尾 均</u>	富士山の森林限界は上昇した！ー現在，過去，未来ー	社叢学会令和5年度 年次総会シンポジウム	富士山本宮 浅間大社	2023/06

発表者名	タイトル	学会名	会場	年月
3 <u>川坂健人</u>	シクリッドの生態から魚の模様の役割を考える	新潟大学形の科学研究センターシンポジウム「鳥・貝・魚・プランクトンのかたち」	新潟大学佐渡自然共生科学センター一臨海実験所	2023/08
4 幸田正典, Bshary Redouan, 久保直樹, 安房田智司, Sowersby Will, <u>川坂健人</u> , 小林大雅, 十川俊平	ホンソメワケベラは自己顔認知により鏡像を自分と認識している	第 57 回魚類学会年会	長崎	2023/09
5 豊増 唯, <u>大森紹仁</u> , 服部淳彦, <u>安東宏徳</u>	月周産卵魚クサブリグにおけるメラトニン受容体 (Mel1b) 遺伝子の発現細胞の脳内分布	日本動物学会第 94 回山形大会	山形	2023/09
6 <u>長部有沙</u> , <u>大森紹仁</u>	ウミシダにおける間充織細胞の発生と分化	日本動物学会第 94 回山形大会	山形	2023/09
7 小野寺尚美, 石井森昭, 山田宜永, 杉山稔恵, 谷口幸雄, 金子良則, <u>祝前博明</u>	トキ飼育下個体群における生存性の遺伝率の推定	日本動物学会第 94 回山形大会	山形	2023/09
8 久保田葉莉, 石井森昭, 山田宜永, 杉山稔恵, 谷口幸雄, 金子良則, <u>祝前博明</u>	トキ飼育下個体群における血統情報を用いた集団遺伝学的パラメータの評価	日本動物学会第 94 回山形大会	山形	2023/09
9 伊藤海音, <u>新田将之</u>	ため池の固有性を考慮した将来ビジョンの意思決定支援手法に関する実践的研究	令和 5 年度土木学会全国大会	広島	2023/09
10 栗林悠莉, <u>新田将之</u> , 二宮仁志	関係人口を巻き込んだ地域づくり活動にみる担い手のモチベーション構造	令和 5 年度土木学会全国大会	広島	2023/09
11 中村元紀, <u>新田将之</u>	季節変化に着目した都市中小河川の水辺利用に関する研究	令和 5 年度土木学会全国大会	広島	2023/09
12 <u>永田尚志</u> , 神田駿, 中津弘	再導入トキ個体群にはたらく密度効果の要因	日本鳥学会 2023 年度大会	金沢大学	2023/09
13 <u>永田尚志</u>	佐渡島におけるトキの再導入プログラムの現状と今後の展望	第 29 回日本野生動物医学会 (市民公開講座)	鹿児島大学	2023/09
14 石井森昭, 山田宜永, <u>祝前博明</u>	血統および SNP 型情報の同時利用による量的形質の遺伝性の評価—黒毛和種直接検定成績による検討	北信越畜産学会第 71 回大会	新潟	2023/10
15 <u>大森紹仁</u>	ウミユリ類より体制の進化を探索	第 134 回 新潟大学理学部コロキウム	新潟大学	2023/10

	発表者名	タイトル	学会名	会場	年月
16	安藤芳人, 十川俊平, 幸田正典, 安房田智司, <u>川坂健人</u>	カワスズメ科魚類 <i>Neolamprologus pulcher</i> は概念を持っているのか?	日本動物行動学会 第 42 回大会	京都	2023/11
17	梅田 樹, <u>大森紹仁</u>	佐渡島におけるサドナデシコ ナマコの微小棲息環境と季節 生態	第 19 回 棘皮動物研 究集会	姫路	2023/11
18	<u>飯田 碧</u> (招待講演)	島の淡水性回遊魚の分散と生 態: 佐渡と沖縄の例から	第 55 回種生物学シ ンポジウム 和文誌 シンポジウム 古く て新しい島の生物 学: 島に生きる動植 物の織りなす物語を 読み解く	岡崎・オン ライン	2023/12
19	<u>岡田柚佳</u> , 紙谷智彦, <u>梶本卓也</u>	佐渡島のスギ・ブナ混交林の 過去 30 年間における動態と攪 乱の影響	第 135 回日本森林学 会大会	東京農大	2024/03
20	隅田明洋, 稲垣善之, <u>梶本卓也</u> , 勝野-宮浦眞澄, 小見山 章, 倉地奈保子, 宮浦富保, 長谷川成明, 原 登志彦, 小野清美, 山田雅仁	熱帯林から寒帯林までの個体 葉量を推定する擬似パイモ デルアロメトリー	第 135 回日本森林学 会大会	東京農大	2024/03
21	<u>石原 奏</u> , <u>本間航介</u>	クリの萌芽と潜伏芽の関係性 について	第 135 回日本森林学 会大会	東京農大	2024/03
22	<u>井上大嘉</u> , <u>本間航介</u>	多雪地スギ天然林の更新に枯 死根株が果たす役割	第 135 回日本森林学 会大会	東京農大	2024/03
23	<u>岡田航大</u> , <u>本間航介</u>	佐渡島におけるブナとスギの 生育場所の環境要因について	第 135 回日本森林学 会大会	東京農大	2024/03
24	真野温人, <u>阿部晴恵</u> , 中川清太郎, 渡辺洋一	2つの生育環境を持つ遺存固有 種オサバグサの遺伝的構造と 生存史	日本植物分類学会第 23 回大会	仙台	2024/03
25	田口裕哉, 高橋大樹, 伊東拓朗, 田金秀一郎, 菅原峻太, 小栗恵美子, <u>阿部晴恵</u> , <u>陶山佳久</u>	邦産ビャクシン属ネズミサン 節における網羅的分子系統地 理解析	日本植物分類学会第 23 回大会	仙台	2024/03

	発表者名	タイトル	学会名	会場	年月
26	阪口翔太, 長澤耕樹, 増田和俊, 渡辺洋一, 廣田峻, 陶山佳久, 高橋大樹, 沢和浩, 堀江健二, 坂田ゆず, 坪井勇人, 柳田宏光, 白井伸和, 石原正恵, 福本繁, 藤木大介, <u>阿部晴恵</u> , 瀬戸口浩彰	多雪植物群集の遺伝的分化:25種の比較系統地理解析で探る地理隔離と種特性の影響	日本植物分類学会第23回大会	仙台	2024/03
27	<u>河崎健太郎</u> , <u>飯田 碧</u> , 安房田智司, <u>古郡憲洋</u> , 菅尚子, 岸本圭子, 松倉君子, 大脇淳, <u>大森紹仁</u> , 瀧本 岳, 上野裕介, <u>阿部晴恵</u>	佐渡島大倉川における水生昆虫相の季節変動と年次変動	第71回日本生態学会大会	横浜・オンライン	2024/03
28	<u>川坂健人</u>	共同繁殖魚ネオランプローグス・プルチャーの顔模様の個体性とその発達	第71回日本生態学会大会	横浜・オンライン	2024/03
29	<u>張 瑞琪</u> , <u>阿部晴恵</u>	ホタルブクロの花色多型を規定する要因	第71回日本生態学会大会	横浜・オンライン	2024/03
30	<u>阿部晴恵</u> , 松尾 歩, 陶山佳久, 高嶋敦史, 畑 邦彦, 松倉君子	サザンカの分子系統地理	第71回日本生態学会大会	横浜・オンライン	2024/03
31	<u>木嶋健志</u> , 足立高行, 鈴木聡, <u>阿部晴恵</u>	佐渡島におけるニホンイタチの遺伝的由来及びイタチ科2種の生息状況	第71回日本生態学会大会	横浜・オンライン	2024/03

	発表者名	タイトル	学会名	会場	年月
32	阪口翔太, 長澤耕樹, 増田和俊, 渡辺洋一, 廣田峻, 陶山佳久, 高橋大樹, 沢和浩, 堀江健二, 坂田ゆず, 坪井勇人, 柳田宏光, 白井伸和, 石原正恵, 福本繁, 藤木大介, <u>阿部晴恵</u> , 瀬戸口浩彰	多雪植物群集の遺伝的分化を 探る: 25種を対象とした比較 系統地理解析	第71回日本生態学 会大会	横浜・オン ライン	2024/03
33	K. Sawada, Y. Watanabe, <u>K. Kobayashi</u> , Y. Magome, <u>H. Abe</u> , T. Kamijo	Temporal, spatial, and dietary niche partitioning among snake species on Sado Island (佐渡島に おけるヘビ類の時間的, 空間 的, 食餌的ニッチ分割)	第71回日本生態学 会大会	横浜・オン ライン	2024/03
34	藤田健, 田口裕哉, 澤田聖人, 陶山佳久, 杉山稔恵, <u>阿部晴恵</u>	佐渡島モリアオガエルのニッ チ拡大に基づく形態およびラ イフサイクルの変化とその要 因	第71回日本生態学 会大会	横浜・オン ライン	2024/03
35	<u>原彩峰</u> , <u>古郡憲洋</u> , <u>本間航介</u>	水田ビオトープに設けた水深 の異なる土側溝における水質 と水生昆虫群集の季節変動	第71回日本生態学 会大会	横浜・オン ライン	2024/03

#### 【研究集会等の開催】

- ・ 古くて新しい島の生物学: 島に生きる動植物の織りなす物語を読み解く 2種生物学会シンポジウム  
和文誌編集委員会企画シンポジウム 2023/12 (阿部晴恵ほか) (森)
- ・ 日本から発信する島嶼生物学 5—dispersal ecology—日本生態学会自由集会セッション 2024/3 (阿  
部晴恵ほか) (森)
- ・ 日本学術会議公開シンポジウム「ニンゲン学的環境教育の提案: ローカルとグローバルのはざままで」  
事業構想大学院大学東京+オンライン, 2023/7 (豊田光世ほか) (里)

#### 【受賞】

- ・ 新田将之. 農村計画学会奨励賞受賞, 農村水辺空間における住民の管理活動と親水利用に関する一  
連の研究
- ・ K. Sawada, Y. Watanabe, K. Kobayashi, Y. Magome, H. Abe, K. Takashi. Temporal, spatial, and dietary niche  
partitioning among snake species on Sado Island (佐渡島におけるヘビ類の時間的, 空間的, 食餌的ニッ  
チ分割) 71回日本生態学会大会 (ESJ71) 優秀英語口頭発表賞
- ・ 井上大嘉, 本間航介. 多雪地スギ天然林の更新に枯死根株が果たす役割. 第135回日本森林学会. 学  
生ポスター賞

### 3-2 研究費

課題名	実施期間	資金制度名	氏名（代表・分担）
<b>科学研究費補助金</b>			
<b>区分</b>			
水環境整備の先進地域間比較による中長期的な担い手育成方法の解明	2023-2027年度	若手研究	新田将之（代表）
異なる自然攪乱に適応して溪流と山頂に分布するサツキの生存戦略	2023-2025年度	基盤研究（C）	崎尾 均（代表） 阿部晴恵（分担）
魚類の社会的知性の基盤と神経基盤の解明：生態との関連性から探る魚類の高次認知	2023-2025年度	学術変革領域研究（B）	川坂健人（分担）
X線CTを用いた樹木萌芽生成プロセスの解明と薪炭林施業への応用	2022-2026年度	基盤研究（C）	本間航介（代表）
島嶼域の氷期遺存植生をモデルとした温暖化による森林植生の維持・成立機構	2022-2025年度	基盤研究（C）	崎尾 均（分担）
火災後の永久凍土面の沈下と再上昇で北方林の炭素蓄積量はどのように変化するか	2022-2024年度	基盤研究（B）	梶本卓也（分担）
島嶼環境に直面した広域分布種の送粉生態型分化と侵入定着過程の解明	2021-2025年度	基盤研究（C）	阿部晴恵（分担）
絶滅危惧種の「利用と保全」の順応的ガバナンス構築に向けた学際的研究	2021-2024年度	基盤研究（B）	豊田光世（分担）
大規模産地試験林を用いた樹木の局所環境適応遺伝子の解明	2021-2023年度	基盤研究（A）	本間航介（分担）
回遊パタンの進化の過程を探る：初期生活史と内分泌系からのアプローチ	2021-2023年度	基盤研究（C）	飯田 碧（分担）
極端気象がもたらす風水害の頻発化・激甚化で変わる地域社会の持続可能性評価	2021-2023年度	挑戦的研究（萌芽）	豊田光世（分担）
半月周産卵リズムの形成機構：潮汐を伝える体内時計と分子基盤の解明	2020-2023年度	基盤研究（B）	安東宏徳（代表） 大森紹仁（分担）
日本とアジア大陸間の相互移入に基づく植物多様性ホットスポットの形成プロセス	2019-2023年度	基盤研究（C）	阿部晴恵（代表）
住民主導の地区計画の理論化完成に向けたマネジメントサイクルの実態解明	2019-2023年度	基盤研究（C）	新田将之（分担）
<b>その他公的競争的資金</b>			
佐渡島の豊かな海を生かした海洋生物多様性を学ぶためのハイブリッド型フィールド研修	2023年度	日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）	大森紹仁（代表）
<b>民間財団等の競争的資金</b>			
里山水域ネットワークの多面的機能保全に資する分散型マネジメントの社会実装研究	2023-2024年度	公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団国内研究助成	新田将之（代表）
多様な河川環境での稀少な甲殻類の生息環境の理解と保全への提言	2023-2024年度	公益財団法人日本生命財団環境問題研究助成	飯田 碧（代表）

課題名	実施期間	資金制度名	氏名（代表・分担）
小規模ため池の多機能性と固有性を考慮した保全施策の意思決定支援手法	2023年度	公益財団法人農業農村工学会研究グループ助成	新田将之（代表）
魚類の脳における温度感受機構—海水温上昇による生殖生理への影響に関する研究	2023年度	公益財団法人内田エネルギー科学振興財団試験研究費助成	安東宏徳（代表）
沿岸性魚類のなわばり行動：個体識別と社会的文脈に基づく意思決定	2023年度	公益財団法人内田エネルギー科学振興財団試験研究費助成	川坂健人（代表）
日本列島の縮図、佐渡島の生物史を読み解く植物まるごと系統解析	2023年度	(公財)昭和聖徳記念財団	阿部晴恵（代表）
花蜜酵母とその香気成分を変化させる生態的プロセスの解明とその応用	2023年度	(一財)永井知覚科学振興財団	阿部晴恵（代表）
水深の変化がサドガエルの変態時の特徴に与える影響：江やビオトープを重視した保全対策の改善に向けて	2023年度	公益信託増進会自然環境保全研究活動助成基金	高津邦夫（代表）
越冬環境の泥と水の深さがサドガエル幼生の越冬成功と翌春以降の成長・発生に与える影響：江やビオトープを重視した保全対策の改善に向けて	2023年度	公益信託富士フィルム・グリーンファンダ	高津邦夫（代表）
佐渡島における稀少な通し回遊性魚類カンキョウカジカの河川内分布と生態	2023年度	公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団国際会議助成	飯田 碧（代表）
佐渡島周辺海域の環境とプランクトン動態の解明	2022–2023年度	公益財団法人内田エネルギー科学振興財団試験研究費助成	飯田 碧（代表）
里山の物質循環機能の定量化に向けた客土後の水田畦畔におけるトビムシ群集の移入経路の特定	2022–2023年度	公益財団法人内田エネルギー科学振興財団試験研究費助成	古郡憲洋（代表）
<b>寄付金その他外部資金</b>			
共同研究「佐渡島自然共生ラボの運営を通じた産官学民連携の課題解決手法に関する研究」	2023年度	株式会社NTTデータ	豊田光世
環境省生物多様性モニタリング 1000 森林系コアサイト	2008–2023年度 (継続)	一般財団法人自然環境研究センター	崎尾 均 (サイト代表)
環境省生物多様性モニタリング 1000 森林系コアサイト	2004–2023年度 (継続)	一般財団法人自然環境研究センター	本間航介 (サイト代表)

## 4 教育活動

### 4-1 学内の教育

対象	講義名	開講時期	担当領域 (副担当)
<b>学部</b>			
全学部			
全学年	地域災害環境システム学入門	第2ターム	里
	朱鷺・自然再生フィールドワーク	第2ターム	里
	環境学実習(副専攻)	8/21-23	森
	森・里・海フィールド実習	9/11-16	森・里・海
	朱鷺をシンボルとした自然再生	第3ターム	森・里
	地域災害環境システム学演習	第3ターム	里
	私のローカルキャリア論	第3ターム	CD
	人文系展開科目 D	第3・4ターム	里
	環境生物学野外実習 C	3/4-8	海
2年生	生態系を知る	第2ターム	里・森
理・農学部フィールド科学人材育成プログラム3年生			
	フィールド安全論	第1ターム	森・海
	野生植物生態学	第1ターム	森
	里地里山再生学	第1ターム	里・(森)
	環境政策論 a	第2ターム	森
	野生植物生態学実習	7/21-23	森
	自然再生学実習	8/29-9/1	里
	フィールドワーカーのためのリスクマネジメント実習(2)	9/4-7, 9/11-14	森
	臨海実習 I	8/21-26	海・(森)
	希少生物保全学	第3ターム	里・(森)
	水圏生態学	第4ターム	海
<b>理学部</b>			
理学科1年生	理学基礎演習(フィールド科学人材育成プログラム)	第2ターム	海
理学科2年生	海洋生物学実験	8/29-31	海
理学科2年生・ 農学科2年生	系統動物学	7/10-13	海
理学科生物学 プログラム3年生	臨海実習 I	8/21-26	海・(森)
理学科生物学 プログラム3年生	動物生理学 III	第4ターム	海
<b>農学部</b>			
農学科1年生	新潟の農林業	第3ターム	森
農学科2年生	基礎農林学実習	5/20-21, 6/17-18, 7/8-9, 8/17-18	森
	動物遺伝学	第2ターム	里
農学科3年生	育林系演習及び実習(1)	9/25-28	森
	動物遺伝増殖学	第3ターム	里
	生態系管理演習及び実習	10/13-15	森
	環境モデリング入門	第4ターム	里
2,3年生	森林再生学	第3ターム	森
<b>大学院</b>			
自然科学研究科			
修士課程	森林生態学特論	通年	森

対象	講義名	開講時期	担当領域 (副担当)
	野生植物生態学特論	通年	森
	島嶼生態学特論	通年	森
	希少生物学特論	通年	里
	環境ガバナンス概論	第1学期	森・里
	流域環境思想論	第1学期	里
	プロジェクト研究概論	第1学期	里
	神経内分泌学	第2学期	海
	水圏生物学	第2学期	海
	自然再生学特論	第2学期	里
博士課程	森林生態系管理学Ⅱ	通年	森
	環境ファシリテーター論及び演習	第1学期	森・里
	環境保全の合意形成論	第1学期	里
	適応統合生物学	第2学期	海
	保全生物学特論Ⅱ	第2学期	里

#### 4-2 佐渡3施設で実施した他大学等の教育

対象	講義名	開講時期	担当領域
日本大学	卒業論文に係る共同利用実習	4/29-5/2	森
新潟大学大学院ほか	島嶼生態学特論	5/9-11	森
日本自然環境専門学校	佐渡森林生態実地研修	5/12-13	森
東邦大学	野外生態学実習Ⅱ	5/22-25	森
東邦大学	野外基礎実習	5/22-25	森
新潟農業・バイオ専門学校	樹木学	6/6-9	森
バングラデシュ農業大学・チャット グラム獣医動物科学大学・ハノ イ国立教育大学・香港大学 他	SAKURA Practical Course “International Marine Biology Course 2023”	7/24-28	海
東京都立大学	生態学野外実習	8/5-10	森
東京医科歯科大学	S・海産生物学実習	8/6-8	海
浦和大学	自然科学・理科教育ゼミ 臨海実習	8/9-11	海
国際ペットワールド専門学校	佐渡臨海実習	8/17-20	海
日本大学	造林学実習	8/21-24	森
公開臨海実習 全国7国公立大学	海洋生物多様性実習	8/21-26	海・(森)
石川県立大学	動物育種学	8/28-31	里
大阪教育大学	野外植物実習	8/29-9/1	森
大阪教育大学	佐渡実習	8/29-9/1	森
大阪産業大学	生態学特別演習2	8/30-9/1	海
近畿大学農学部	水産生物学実習	9/6-9	海
新潟大学ほか	フィールドワーカーのためのリス クマネジメント入門実習	9/11-14	森
公開臨海実習 全国8国私立大学	森里海をつなぐ野外生態学実習	9/11-16	森・里・海
大阪産業大学	生態学特別演習1	9/18-20	森
長野大学環境ツーリズム学部	専門ゼミナール 佐渡臨海実習	9/25-28	里・海
公開臨海実習 全国7国公立大学	動物発生学臨海実習	3/4-8	海

### 4-3 3 施設で実施したその他の教育

対象	講義名	開講時期	担当領域/ 実施者
佐渡市民	佐渡おとなの遠足	6/28	海
佐渡市小学生	佐渡市 こども環境学習会	7/25	海
一般市民	佐渡島 SDGs 天・地・人サイエンスプロジェクト	7/30	里・海
県内外高校等	新潟大学公開講座 高校生対象公開臨海実習	8/1-4	海
佐渡市民	公開林間実習 2023	7/29	森
NPO 法人 JUON Network	「トキの島・森の楽校」夏	8/21-23	森
NPO 法人 JUON Network	「トキの島・森の楽校」秋	10/7-19	森

### 4-4 施設利用状況

演習林	他大学		学内		一般・小中高生	計
	実習	実習以外	実習	実習以外 所属学生含む	実習・研修等 エコツアー除く	
利用人数 (延べ)	522	70	670	1259	63	2,584

朱鷺・自然再生学研究 施設 (キセン城)	実習活動 (延べ人数)	研究活動 (延べ日数)	その他 (延べ日数)
	53 名	57 日	115 日

臨海実験所	他大学			学内		一般 小中学校	計
	フィールド 利用型 実習	公開臨 海実習	実習以外	実習	実習以外 所属学生含む	実習・研修 等	
利用人数 (延べ)	414	199	46	336	1,836	302	3,133

## 5 地域連携と社会活動

### 5-1 佐渡市との連携による事業

- 1) 佐渡島自然共生ラボの企画・運営 (佐渡市・NTT データ株式会社・新潟大学共同事業)  
2022 年度開設したリビングラボを舞台に、森里海の資源活用やエシカル生産・消費の拡大など自然共生社会の実現に向けたさまざまなプロジェクトを産官学民連携で実施した。
- 2) 佐渡ローカルイノベーションプログラムの企画運営 (佐渡市・NTT 東日本・NTT DX パートナー・新潟大学共同事業)  
新潟大学の学生向けに佐渡の地域課題解決をテーマとしたデザイン思考的アプローチの教育プログラムの開発と試行に取り組んだ。

### 5-2 その他の地域連携・社会活動

内容	実施日	会場	担当領域/ 実施者
小中高校の教育支援			

内容		実施日	会場	担当領域／ 実施者
佐渡市高千小学校	社会科の校外学習 地元施設の見学対応	5/17	演習林	梶本卓也
佐渡市立赤泊小学校	海の学習（マイクロブ ラスチック）	6/13	臨海実験所	海
佐渡市立河崎小学校	久知川の環境調査学 習	6/22	佐渡市内	高津邦夫
佐渡市立金泉小学校	校外学習	7/30	臨海実験所	海
佐渡島 SDGs 天地人サイエ ンスプロジェクト	海藻ワークショップ	7/30	アミューズメ ント佐渡	豊田光世
新潟ジュニアドクター育成 塾	令和5年度マスタープ ログラム佐渡研修	8/19	歌見田、潮津の 里	豊田光世
新潟ジュニアドクター育成 塾	令和5年度ドクタープ ログラム		オンライン、佐 渡市内	豊田光世
佐渡市地域クラブ活動	佐渡探求（海編）	2/18	臨海実験所	海
<b>学校教員向け研修</b>				
新潟大学附属新潟中学校	道徳授業研究講師	5/19, 7/21, 9/6, 10/26	新潟中学校 ＋オンライン	豊田光世
佐渡市立理科教育センター	サドガエル等佐渡固 有生物生態研修会	6/21	トキ交流会館	高津邦夫
相川中学校区小・中学校研 修会	p4c 研修	7/26	相川小学校	豊田光世
佐渡市立八幡小学校校内研 修会	p4c 研修	7/27	八幡小学校	豊田光世
佐渡市立理科教育センター	磯の生物の生態研修 会	7/31	臨海実験所	海
佐渡市立理科教育センター	加茂湖再生等環境教 育研修会	8/22	加茂湖	豊田光世
佐渡市立赤泊小学校	道徳教育研究・指導者	11/10	赤泊小学校	豊田光世
佐渡市立理科教育センター	トキの生態研修会	11/17	トキ交流会館	永田尚志
<b>市民向けセミナー・フォーラム等</b>				
2023 年度生物地球科学研究 会現地セッション in 佐渡	森林領域佐渡ゼミ	4/22	演習林／オン ライン	森
第8回サイエンスカフェ	植物の名前と牧野富 太郎 朝ドラで話 題！	5/18	おに Cafe	崎尾 均
令和5年度佐渡市市民環 境講座	森のいきものつな がり	5/27	演習林	阿部晴恵 古郡憲洋
令和5年度佐渡市環境学習 ツアー	森林領域佐渡ゼミ	5/27	演習林	森
熊本県立大学	流域治水を核とした 復興を起点とする持 続社会	5/30	オンライン	豊田光世
第9回サイエンスカフェ	ある森林研究者の生 存戦略！－人生の決 断－	6/21	おに Cafe	崎尾 均
トキの里探検隊	里山体験ガイド実習	6/24 9/10 10/29	佐渡市内	高津邦夫 新田将之 古郡憲洋
令和5年度両南塾	探究の対話（p4c）研修 会	6/25	岩首集落セン ター	豊田光世

内容		実施日	会場	担当領域／ 実施者
令和 5 年度 佐渡市環境学 習ツアー	第 5 回 海洋マイクロ プラスチック調査	6/25	臨海実験所+達 者海岸	海
新潟大学トップマネジメン ト研修第 8 回エクステンシ ョン	佐渡島で進める共創 の場づくり	6/30	オンライン	豊田光世
第 10 回サイエンスカフェ	水辺の樹木の生存戦 略！—あの手この手 で生き残り—	7/11	おに Cafe	崎尾 均
自然共生のプラットフォーム 形成フォーラム	森里海を探究する仲 間とつながろう	7/30	アミューズメ ント佐渡	豊田光世
世界仮想旅行社	水が育てる森と植物	8/25	オンライン	崎尾 均
PARA 共有の知恵レクチャ ーシリーズ	共有をめぐる探究：シ ェアの時代の到来に より生まれる変化と は？	8/26	PARA, 東京	豊田光世
第 11 回サイエンスカフェ	誰もが行きたい屋久 島—縄文杉に出会う 旅—	9/5	おに Cafe	崎尾 均
佐渡市理科教育センター	子どものための科学 祭り	9/18	アミューズメ ント佐渡	海
トキ放鳥 15 周年記念 「トキを語る佐渡夜会」	ファシリテーター	9/25	トキ交流会館	豊田光世
第 15 回いい川・いい川づく りワークショップ	コメンテーター	9/30— 10/1	東北大学青葉 山コモンズ	豊田光世
令和 5 年度ジオパーク市民 講座	インタープリテーシ ョン研修	9/30	トキ交流会館	古郡憲洋
八ヶ岳ガイド講習	日本の森林の特徴と その直面する問題	10/4	八ヶ岳自然文 化園	崎尾 均
東京工業大学社会人アカデ ミー	合意形成学セミナー	10/11, 11/8, 11/15, 11/22, 12/13	オンライン	豊田光世
第 12 回サイエンスカフェ	豪雪が作り出した自 然—只見ユネスコエ コパーク—	10/17	おに Cafe	崎尾 均
森フェス ヤッホー！	佐渡島の自然と天然 スギ	10/22	隠岐島文化会 館	崎尾 均
第 46 回女性のつどい	パネリスト	11/5	佐渡島開発総 合センター	豊田光世
首都圏佐渡連合会第 14 回 文化講演会	佐渡島の自然、現在過 去未来	11/11	表参道・新潟館 ネスパス	崎尾 均
令和 5 年度佐渡地区高等学 校・中等教育学校 PTA 研修 会	佐渡島で展開する子 どもの哲学の探究的 学び	11/17	ホテル志い屋	豊田光世
佐渡南ロータリークラブ講 演会	佐渡島の自然 —天 然杉—	11/21	浦島	崎尾 均
第 13 回サイエンスカフェ	隠岐ユネスコ世界 ジオパークの自然 —離島の天然杉を 求めて—	11/22	おに Cafe	崎尾 均

内容	実施日	会場	担当領域／実施者
大佐渡山地北西斜面風衝地にみられる植生とその成立環境 講師：細渕有斗（日本大学）	12/4	オンライン	森
令和5年度 佐渡市市民大学講座	佐渡島の海産無脊椎動物研究	12/6	アミューズメント佐渡 大森紹仁
探究の対話(p4c)研究会	パネルディスカッション	12/9	宮城教育大学 オンライン 豊田光世
東京工業大学リーダーシップ教育院	探究の対話 (p4c) ワークショップ講師	12/13	東京工業大学 豊田光世
佐渡市・佐渡島自然共生ラボ共催「佐渡SDGsフェア」	佐渡島自然共生ラボプロジェクト紹介	12/23	あいぼーと佐渡 豊田光世
第14回サイエンスカフェ	サイエンスカフェディナー	12/23	おにCafe 崎尾 均
世界仮想旅行社	自然首都・只見 冬の植物と活用	1/12	オンライン 崎尾 均
智頭の山人塾 森林と樹木のサイエンスシリーズ	スギの生き様	1/18	オンライン 崎尾 均
第15回サイエンスカフェ	外来樹種との格闘—ハリエンジュ—	2/7	おにCafe 崎尾 均

### 5-3 シンポジウム・セミナー等の開催

名称	開催日	会場
新潟大学佐渡自然共生科学センターシンポジウム 佐渡島でカエルへの愛を叫ぶ カエルの魅力を言いたくて仕方ない私たち～佐渡島のカエル研究のあれこれ～	10/9	あいぼーと佐渡・オンライン
新潟大学佐渡自然共生科学センター学生発表会	3/1	トキ交流会館・オンライン

## 6 資料

### 6-1 報道関係

- 1) 新潟日報, 「デジタル生かす自然との共生は」, 2023/4/8 (森・里・海)
- 2) 新潟日報, 「農業の今と未来体験して学ぼう」, 2023/4/19 (CD)
- 3) フジテレビ, 「ネプリーグ」, (写真・解説提供「スカシカシパン」) 2023/5/15 (大森紹仁) (海)
- 4) 新潟日報「牧野富太郎業績学ぼう」, 2023/5/30 (崎尾 均) (森)
- 5) NHK, きらっと新潟「佐渡に舞う奇跡の鳥～トキ」, 2023/7/7 (永田尚志) (里)
- 6) 新潟日報 Otona+, 「佐渡 希少な植物の宝庫」, 2023/7/21 (崎尾 均) (森)
- 7) サドテレビ, 「佐渡市生活環境課『こども環境学習会』」 2023/8/8 (海)
- 8) 新潟日報, 「泳いで発見 海の生物」(佐渡市生活環境課『こども環境学習会』) 2023/8/9 (海)
- 9) UX 新潟テレビ 21, スーパーJにいがた「佐渡市第5回環境学習ツアー「海洋マイクロプラスチック調査」」2023/8/23 (海)
- 10) テレビ朝日, 「人生の楽園」(写真提供:「タコノマクラ」) 2023/9/9 (海)
- 11) 新潟日報, 「島内の多彩な自然実感」, 2023/9/14 (崎尾 均) (森)
- 12) フジテレビ, 「世界の何だコレ?!ミステリー」(動画提供「アメフラシ」) 2023/9/27 (海)
- 13) 新潟日報, 環境に配慮した食 業種超え」, 2023/10/4 (CD)
- 14) NHK, ダーウィンが来た「復活から15年! 見えてきたトキの素顔」, 2023/10/15 (永田尚志) (里)
- 15) 新潟日報, 「佐渡島でカエルへの愛を叫ぶ」2023/10/19 (森里海)
- 16) NHK テレビ新潟ニュース 610, 「街路樹に何があった?! 一部に異変」, 2023/10/20 (崎尾 均) (森)
- 17) 産経新聞, 「探訪: トキ放鳥 15年～本州ゆかりの地での野生復帰へ」, 2023/10/22 (永田尚志) (里)
- 18) 高島屋ファイナンスパートナーズ, 特集「つなぐということ: トキの野生復帰をシンボルに,

- 自然をつなぐ佐渡の里山」, Takashimaya Salon October 2023, 198:2-7, (取材協力) (永田尚志) (里)
- 19) 新潟日報, 「海藻ふんだん給食レシピ」, 2023/12/21 (CD)
  - 20) 新潟大学季刊広報誌 六花 第46号, 「佐渡島の海産無脊椎動物研究」(取材協力) 2024/1 (大森紹仁) (海)
  - 21) 新潟日報, 「島の課題 どうすれば? 新大生ら解決策提案」, 2024/1/30 (CD)
  - 22) NHK, NHK610 ニュース「野生下のトキ放鳥後初の減少」, 2024/2/19 (永田尚志) (里)
  - 23) NHK, おはよう日本関東甲信越ニュース「国内のトキ放鳥開始以降で初の減少」, 2024/2/20 (永田尚志) (里)
  - 24) マガジンハウス, BRUTUS.jp「水族館で水槽を覗くとき、魚たちもまたこちらを覗いている!?!」(取材協力) 2024/3/7 (川坂健人) (海)
  - 25) 新潟日報, 「合併前からの遺産重く: 公共施設存廃や集約、難しい判断」, 2024/3/8 (CD)
  - 26) Frontier Journey, 「島にシチズン・サイエンスの拠点を 植物一筋 60年の植物学者が佐渡のキャンパスに描く新たな夢 (<https://www.sunfrt.co.jp/blog/2024/03/vol054/>)」, 2024/3/8 (崎尾 均) (森)
  - 27) 新潟日報, 「佐渡加茂湖 豊かな自然守り育てる」, 2024/3/17 (CD)

## 6-2 構成員

### センター長/副センター長

永田尚志・センター長 理学博士

専門分野: 鳥類生態学, 保全生物学

研究テーマ: トキの再導入生物学に関する研究, 希少鳥類の保全, 鳥類の繁殖戦略

所属学会: 日本生態学会, 日本動物行動学会 (Journal of Ethology 編集委員会副編集長), 個体群生態学会, 日本鳥学会 (評議員), 鳥類標識協会, American Ornithological Society, Wilson Ornithological Society, Waterbird Society, Association of Field Ornithologists, International Ornithologist Union

外部委員: 河川学術研究会委員, 河川水辺の国勢調査鳥類スクリーニング委員会委員 (以上, 国交省関係), トキ野生復帰検討会委員, 環境省レッドリスト鳥類分科会委員, モニタリングサイト1000 (森林・草原調査) コア・準コアサイト検討会委員, モニタリングサイト1000 森林・草原調査解析ワーキンググループ委員, モニタリングサイト1000 陸生鳥類検討会委員, モニタリングサイト1000 概要版検討会, 鳥類標識調査検討会委員, ヤンバルクイナ保護増殖事業ワーキンググループ委員 (以上, 環境省関係), 佐渡市環境審議会委員, 佐渡ジオパーク推進協議会委員, 人・トキの共生の島づくり協議会委員, 佐渡市環境アドバイザー (以上, 佐渡市関係), IUCN SIS the International Glossy Ibis Network (IGIN) 委員

安東宏徳・副センター長 理学博士

専門分野: 生殖内分泌学, 神経内分泌学

研究テーマ: 産卵回遊魚の海洋環境適応の脳内メカニズム

所属学会: 日本動物学会, 日本比較内分泌学会, 日本下垂体研究会 (評議委員), 日本水産学会, The Asia and Oceania Society for Comparative, Endocrinology (AOSCE) (Councilmember)

外部委員: 新潟県原子力発電所周辺環境監視評価会議委員, 佐渡海区漁業調整委員会委員, 佐渡ジオパーク推進協議会調査・研究部会部員, 金沢大学環日本海域環境研究センター共同利用・共同研究拠点運営委員会委員, 佐渡市環境アドバイザー

学術雑誌編集委員: Neuroendocrinology (Associate Editor), Frontiers in Experimental Endocrinology (Associate Editor), Fish Physiology and Biochemistry (Editorial Board)

外部講師: 放送大学非常勤講師, Chattogram Veterinary and Animal Sciences University, Bangladesh, Invited lecturer

### 森林領域/演習林

梶本卓也・領域長・教授 博士 (農学)

専門分野: 森林生態学, 造林学

研究テーマ: 樹木の成長機構, 森林の更新過程, 人工林の育成管理技術

所属学会: 日本森林学会 (理事), 東北森林学会

外部委員: 新潟県森林審議会委員, 佐渡市環境アドバイザー, 岩手県久慈市白樺再生事業アドバイザー, 第134回森林学会大会プログラム編成委員会委員長, 同学会賞等表彰委員

外部講師：京都大学農学部非常勤講師  
学術雑誌編集委員：Trees-structure & function (Editorial Board)

本間航介・准教授 博士（理学）

専門分野：森林生態学，里山生態学，保全生態学

研究テーマ：高ストレス・高攪乱環境下における木本植物の更新戦略，里山複合景観が有する生態機能の定量的解明

所属学会：日本生態学会，種生物学会，日本植生史学会

外部委員：環境省生物多様性モニタリング1000 森林系コアサイト検討委員，環境省生物多様性モニタリング1000 森林系一般サイト検討委員，環境省・佐渡市 人・トキ共生の島づくり協議会副会長，新潟県トキ野生復帰アドバイザー，佐渡市環境アドバイザー，JaLTER（日本長期生態研究ネットワーク）佐渡サイト代表

阿部晴恵・准教授 博士（理学）

専門分野：島嶼生態学，保全遺伝学，進化学

研究テーマ：島嶼における生物の進化，ツバキ属の種分化，生物間相互作用

所属学会：日本生態学会（自然保護委員会），日本島嶼学会，日本ツバキ協会，国際ツバキ協会，種生物学会

外部委員：環境省モニタリングサイト1000 里地調査中・大型哺乳類写真同定ワーキンググループ，尾瀬保護財団理事，新潟県環境影響評価審査会委員，東京都RL・RDB植物専門部会委員，JSPS国際事業委員会書面審査委員，JSPS特別研究員等審査会委員，佐渡市環境アドバイザー

外部講師：佐渡市環境アドバイザー，大阪教育大学非常勤講師

古郡憲洋・特任助教 博士（農学）（9月30日異動）

専門分野：群集生態学，里山生態学，保全生態学

研究テーマ：里山景観の推移帯が持つ生態学的機能の定量的解明

所属学会：日本生態学会，日本森林学会，農業農村工学会

外部講師：佐渡市環境アドバイザー

崎尾 均・名誉教授（フェロー） 博士（理学）

専門分野：森林生態学，水辺林の生態と保全，樹木の生活史

研究テーマ：水辺の樹木の生活史戦略

所属学会：日本生態学会，日本森林学会，日本植物学会，植生学会，屋久島学ソサイエティ，IAVS

外部委員：日本MAB計画委員会委員，只見町ユネスコエコパーク支援委員会委員長，只見町ブナセンター紀要編集委員，佐渡ジオパーク推進協議会調査研究部会委員，佐渡市博物館協議会委員，佐渡市博物館ビジョン検討部会委員，佐渡市環境アドバイザー，尾瀬保護財団理事，尾瀬研究推進委員会委員

外部講師：日本自然環境専門学校非常勤講師

濱田栄一・技術専門職員

谷口憲男・技術職員（3月31日退職）

柳屋喜和・技術補佐員（9月30日退職）

本間大也・技術補佐員

石塚しのぶ・事務補佐員（3月31日退職）

梶井 京・事務補佐員

木嶋健志・自然科学研究科修士課程2年

研究テーマ：佐渡島におけるニホンイタチの由来と外来種ニホンテンのニッチ重複検証

- 原 彩峰・自然科学研究科修士課程 2 年  
研究テーマ：水田ビオトープに設けた水深の異なる土側溝における水質と水生昆虫群集の季節変動
- 藤田 健・自然科学研究科修士課程 2 年  
研究テーマ：佐渡島におけるモリアオガエルのニッチ拡大に伴う形質変化とその要因
- 熱方悠人・自然科学研究科修士課程 1 年  
研究テーマ：島嶼におけるツリガネニンジンのポリネーターシフトの究極要因
- 石原 奏・自然科学研究科修士課程 1 年  
研究テーマ：クリにおける潜伏芽と萌芽の関係性について
- 河崎健太郎・自然科学研究科修士課程 1 年  
研究テーマ：大倉川における水生昆虫の流呈分布と物理的環境の関係性
- 小林幸平・自然科学研究科修士課程 1 年  
研究テーマ：都市におけるシマヘビの大型化
- 杉山莞玖斗・自然科学研究科修士課程 1 年  
研究テーマ：スギ天然林に形成されたパッチ状植生が土壤動物群集に及ぼす影響
- 中村美貴・自然科学研究科修士課程 1 年  
研究テーマ：里山利用放棄後の植生遷移
- 相原美彩・農学部 4 年  
研究テーマ：佐渡と本土における植物の網羅的な形態比較
- 阿部健人・農学部 4 年  
研究テーマ：ブナの根元曲がり材の資源量把握と有効活用
- 井上大嘉・農学部 4 年  
研究テーマ：多雪地スギ天然林の更新に枯死根株が果たす役割
- 岡田航大・理学部 4 年  
研究テーマ：佐渡島におけるブナとスギの生育場所の環境要因
- 岡田柚佳・農学部 4 年  
研究テーマ：佐渡島における針広混交林の動態と攪乱の影響
- 川上和希・農学部 4 年  
研究テーマ：佐渡島におけるヒノキアスナロの成長特性
- 櫻井千穂・農学部 4 年  
研究テーマ：送粉者相の違いによるツバキ節の花蜜菌類群集の変化
- ZHANG Ruiqi・農学部 4 年  
研究テーマ：ホタルブクロ属の花色多型を規定する環境要因の解明
- 中島正太・農学部 4 年  
研究テーマ：佐渡島天然生スギ林の成長解析
- 松山侑樹・農学部 4 年

研究テーマ：佐渡島におけるタヌキとイエネコが人間社会や島嶼生態系に与える影響

### 里山領域／朱鷺・自然再生学研究施設

永田尚志・教授・領域長 理学博士

豊田光世・准教授 博士（学術）

専門分野：環境哲学，合意形成学，環境教育，対話教育

研究テーマ：環境共生社会の実現に向けた市民参画プロセスのデザイン

所属学会：日本環境教育学会，日本感性工学会，「野生生物と社会」学会，日本デザイン学会，The International Council of Philosophical Inquiry with Children

外部委員：日本学術会議連携会員（環境学委員会環境思想・環境教育分科会委員，環境教育の思想的アプローチ小委員会委員長，哲学委員会いのちと心を考える分科会委員），科学研究費委員会専門委員，新潟県環境審議会委員，佐渡市世界農業遺産推進会議委員，佐渡市生物多様性佐渡戦略推進委員会社会系ワーキングチーム委員，佐渡市さと未来創造・戦略推進会議委員，佐渡教育コンソーシアム検討委員，佐渡市デジタル化推進検討懇談会委員・座長，佐渡市公共施設あり方検討会議ファシリテーター，佐渡ビジネスコンテスト 2024 審査委員，佐渡市進出企業定着・地域活性化支援事業補助金審査委員，佐渡市環境アドバイザー，人・トキ共生の島づくり協議会委員，佐渡市立行谷小学校学校関係者評価委員，福井県立若狭高等学校マイスターハイスクール推進委員，県立広島大学重点研究事業審査部会委員

外部講師：東京工業大学リベラルアーツ研究教育院非常勤講師，東京工業大学社会人アカデミー講師，兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科非常勤講師

その他：一般社団法人岩首めぶきラボ理事，一般社団法人潟上未来会議理事

高津邦夫・准教授 博士（環境科学）（4月1日着任）

専門分野：動物生態学

研究テーマ：環境条件に応じた個体の特徴の変化とそれが生物間相互作用に与える影響について

所属学会：個体群生態学会，日本生態学会

新田将之・准教授 博士（農学）（4月1日着任）

専門分野：地域環境工学・計画学

研究テーマ：農村水辺環境の利用管理に関する研究，地域づくりに関する計画論的研究

所属学会：農業農村工学会，農村計画学会，土木学会，応用生態工学会，International Association for Hydro-Environment Engineering and Research

外部委員：農業農村工学会農村計画研究部会代表幹事，比企丘陵農業遺産推進協議会委員

古郡憲洋・特任助教 博士（農学）（10月1日着任）

専門分野：群集生態学，里山生態学，保全生態学

研究テーマ：里山景観の推移帯が持つ生態学的機能の定量的解明

所属学会：日本生態学会，日本森林学会，農業農村工学会

外部講師：佐渡市環境アドバイザー

祝前博明・フェロー，本学教育支援員 Ph.D.

専門分野：量的遺伝学，生物統計学，家畜育種学

研究テーマ：和牛の育種改良，トキ個体群の遺伝的多様性，ゲノム評価法

所属学会：日本畜産学会

外部委員：（公社）畜産技術協会事業推進委員会委員，（公社）全国和牛登録協会中央審査委員，など

外部講師：石川県立大学非常勤講師

倉橋玄宜・技術補佐員（6月30日退職）

曾我京佑・自然科学研究科修士課程2年

研究テーマ：リビングラボ運営のための共創評価ツールの開発

川崎敬心・自然科学研究科修士課程 2 年

研究テーマ：河川水辺の国勢調査からみる河川改修が魚類に及ぼす影響

藤田 陽・自然科学研究科修士課程 2 年

研究テーマ：佐渡島の沿岸小河川におけるイワナとヤマメの資源利用及び種間競争プロセスの考察

松村拓樹・自然科学研究科修士課程 2 年

研究テーマ：水生昆虫の保全を目的としたビオトープ管理の検討

三上 花・自然科学研究科修士課程 2 年

研究テーマ：新潟市の海岸林におけるマツ枯れ被害木伐採による鳥類への影響

関口桃野・自然科学研究科修士課程 1 年

研究テーマ：水産養殖認証制度の価値分析

小林利彦・自然科学研究科修士課程 1 年

研究テーマ：国府川の地域環境史研究

鈴木健太・農学部 4 年

研究テーマ：生物多様性国家戦略と関東甲信越地域の生物多様性地域戦略のテキスト分析

古屋祐奈・農学部 4 年

研究テーマ：佐渡におけるトキの営巣場所選択に関する研究

## 海洋領域／臨海実験所

安東宏徳・教授・領域長 理学博士

飯田 碧・准教授 博士（農学）

専門分野：魚類生態学，水圏生物学

研究テーマ：通し回遊性生物についての生態学的研究，海洋におけるプランクトンの動態

所属学会：日本水産学会，日本魚類学会（代議員），日本生態学会，日本動物学会

外部委員：新潟県環境影響評価審査会委員，新潟県洋上風力発電導入研究会環境影響専門部会委員，新潟県環境審議会 環境管理部会副部会長，新潟県環境審議会 水環境部会委員，新潟県加茂湖海水導入施設環境改善効果検討委員会部会長，新潟県上越地方振興局河川水辺の国勢調査アドバイザー，国土交通省北陸地方整備局信濃川水系流域委員会 下流部会委員，国土交通省北陸地方整備局阿賀野川水系流域委員会委員，国土交通省北陸地方整備局阿賀野川水系流域委員会 下流部会委員，国土交通省北陸地方整備局北陸地方ダム等管理フォローアップ委員会委員，国土交通省北陸地方整備局河川水辺の国勢調査アドバイザー，公益財団法人新潟市河川文化財団理事，佐渡市環境アドバイザー，東京大学大気海洋研究所 共同利用外部委員

学術雑誌編集委員：Ecological Research (Editorial Board)

大森紹仁・助教 博士（理学）

専門分野：進化発生学，系統分類学

研究テーマ：棘皮動物の体軸進化と自然史に関する研究

所属学会：日本動物学会，日本発生生物学会

外部委員：佐渡市環境アドバイザー

川坂健人・特任助教 博士（理学）（4 月 1 日着任）

専門分野：動物行動学，行動生態学

研究テーマ：なわばり性魚類における社会行動と社会的認知

所属学会：日本動物行動学会，日本動物心理学会，日本魚類学会，日本生態学会，日本動物学会

下谷豊和・技術専門職員

小杉かおる・技能補佐員

本間 悟・技能補佐員（6月1日着任）

Chowdhury, Parvez・自然科学研究科博士課程2年

研究テーマ：Seasonal changes in plankton communities and their relationship with the environment in coastal waters around Sado Island, Sea of Japan

長部有沙・自然科学研究科修士課程2年

研究テーマ：ウミシダにおける間充織細胞の発生と分化

高嶋聖奈・理学部4年

研究テーマ：月周産卵リズムを持たない佐渡島のクサフグの雄の脳における遺伝子の月周発現変動

長谷川 蓮・理学部4年

研究テーマ：佐渡島沢根海岸における小型底生生物相の解明

堀井紘大・農学部4年

研究テーマ：日本近海産 *Anneissia* 属ウミシダ類2種の分類再検討

### **コミュニティデザイン室**

豊田光世・准教授・室長 博士（学術）

里山領域と兼任

新田将之・准教授 博士（農学）（4月1日着任）

里山領域と兼任

古郡憲洋・特任助教 博士（農学）（10月1日着任）

里山領域と兼任

北 愛子・特任助手（6月30日退職）

「里山農業の未来デザインプロジェクト」担当

川崎 菜摘・特任専門職員（8月1日着任）

### **センター事務局**

渡辺浩匡・事務室長

石山 治・総務係長

高橋美由紀・事務補佐員

加藤聡子・事務補佐員

---

新潟大学 佐渡自然共生科学センター 2023（令和5）年度年次報告書

発行日：2024年8月15日

編集：佐渡自然共生科学センター 広報委員会（飯田 碧，豊田光世，本間航介）

発行：新潟大学 佐渡自然共生科学センター

<https://www.sices.niigata-u.ac.jp>

---